

脱炭素社会へ

製造技術でリード

アルミニウムから水素を発生させる装置―高岡市オフィスパーク



アルミごみ再利用

■ アルハイテック

高岡市のベンチャー企業、アルハイテックはアルミから生成する新エネルギー「アルミ水素」の普及に取り組んでいる。製造過程でCO₂を排出しないことから、トヨタ自動車など多くの企業が優位性に注目し、共同研究が進む。地域から出るアルミごみを再利用し、エネルギーを地産地消する仕組みの構築を目指す。

アルミ水素はアルミとアルカリ溶液を化学反応させると発生し、アルハイテックが世界で初めて製造技術を確認した。アルミ9割から水素1割をつくり出すことができる。アルハイテックが開発した装置にアルミを投入すると必要な時に必要な量のアルミ水素を発生でき、輸送や貯蔵のコストを抑えられる。副産物の水酸化アルミも難燃剤などの工業用原料に活用できる。脱炭素社会の実現に貢献する技術として本年度の「気候変動アクション環境大臣表彰」を受賞。環境省が新年度に予定する数億円規模の財政支援事業の優先採択権も得た。

同社は地域で回収したアルミごみから水素を生成し家庭やオフィスに電力を供給したり、災害時の非常電源にしたる構想を描く。水木伸明社長は「廃棄物を生かしてエネルギーを地産地消するまちづくりを進めたい」と話す。

アルミ水素の地産地消イメージ

